

団体名 糸満市立米須小学校	連絡先 TEL : 098-997-4511 Eメール : komesu@komesu.city.itoman.okinawa.jp
------------------	---

1 実践事項 (2) タイトル：「米須の『続ける』・『つなげる』・『つながる』」

2 実践内容

(1) 方策1「日常化する」(質的授業改善)

- ①「自ら見通しをもち、自己調整しながら自立して学習する児童の育成」を研究主題とし、校内研修において、個別最適な学びに視点を置いた授業改善の工夫に取り組んだ。研究を進めるにあたっては、管理職や大学講師による「個別最適な学び」についての理論研究や授業づくりを行い、日々の授業に生かせるようにした。
- ②指導主事を招聘し、「個別最適な学び」を取り入れた提案授業を参観していただき、指導を仰いだ。
- ③低・中・高学年それぞれで、全体研授業や授業研究会を実施し、授業後にワークショップや、管理職から指導助言をいただき、授業改善を図った。

(2) 方策2「そろえる」(組織的実践)

- ①自立して学習する児童の育成に向け、昨年度より引き続き「自学自習『GO けてぶれ+』(目標設定・力試し・ふり返り・再挑戦)」に取り組んだ。また、校内掲示において、児童が取り組んだ「GO けてぶれ+」のノートを掲示板に貼だし、お手本になる取組例の紹介を行うことで、他の児童の自学自習の意欲を高め、掲示された児童の承認の場を設定した。
- ②各教室に「学習のそろえる」を掲示し、始業前の学習の準備や移動教室の仕方、始業前の着席や黙想などを意識させ、学習を支える力の育成を図った。
- ③全国学力調査(6年)や標準学力調査(3年)、学びのたしかめ(4・5年)の結果を分析し、個々の課題把握を行った。また、個人面談において、結果を保護者と共有し、その課題を解決することができるように個に応じた補充問題を提供し、家庭との連携を図った。
- ④年2回(6月、12月～2月)、学力向上強化旬間を設け、朝学習の時間(一学期)や放課後の10分間、課題が残る問題に取り組みせ、全職員体制で個々の課題克服に向けた指導を行った。

(3) 方策3「支える」(発達の支援)

- ①1年生から6年生までを複数のグループに分けて清掃を行う「たて割り班清掃」を通して、高学年がリーダーシップを発揮し、低学年に掃除の仕方を教えることで、思いやりの気持ちを育んだり、低学年が高学年に対し、憧れの気持ちを持ったりするなど、道徳心の育成やキャリア発達を促すことに繋がった。
- ②月1回のいじめ防止委員会や校内支援委員会において、問題行動や不登校・登校しぶり、気になる児童を全職員で共有し、今後の対応や声かけの仕方などについて共通理解を図るなど、チーム体制で児童支援に努めた。
- ③児童の学校での活動や活躍、様子を紹介する液晶モニターや掲示板を通して、児童を承認する場を設けたり、他学年の学校生活の様子や頑張りを全校で共有したりすることができるようにしている。

(4) 「見通す」(学校組織マネジメント)

- ①学校における年間サイクルをもとに、学力向上強化期間や体育的行事の期間、児童との教育相談や保護者との個人面談など、実施する時期を意識しながら教育活動を計画・実施している。また、教師・児童・保護者に、学校評価に関する項目を事前に周知し、教育活動に参画してもらうことで、同じ視点で学校評価を行えるようにした。
- ②全国学力調査や学びのたしかめ、標準学力調査等の結果を分析したり、本校児童の課題を全職員で共有したりし、個に応じた学力保障の取組や、課題となる教科領域や単元の授業改善を行った。

(5) 方策5「つなぐ」(学校連携・地域連携)

- ①小中連携では、中学校区の3小1中の校内研究授業をそれぞれ参観し合ったり、Google クラウドで、校内研の取組について情報共有したりし、連携を図った。
- ②学校運営協議会を通じて、保護者や地域の方々に朝の見守りボランティアや登下校時の交通安全見守り指導、読み聞かせボランティア等の協力依頼を行い、学校教育への参画を促すことができた。

